

ジャワ島地震

日本人医師が診療開始

AMDA 被災地2地区巡回

【シヨクジャカルタ(インドネシア) 1日斎藤章一朗】インドネシアのジャワ島中部地震の救援活動に向かった国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市)の日本人医

師らが一日、被災地のシヨクジャカルタで巡回診療を始めた。(6面関連) 現地に入ったのは細村幹夫医師(四〇)と埼玉県越谷市二と、峯岸亜紀子看護師(三七)と北海道室蘭市

二の二人。細村医師は二〇〇三年のイラン南東部地震での緊急救援活動などにも参加している。巡回診療は、既に活動を行っているAMDAイ

と合流し、十八人でチームを編成。初日は世界遺産の寺院群遺跡が大きな被害を受けたプランバンのペレン村など二地区を回った。いずれも建物のほとんどが全壊し、多

数の被災者が出ている。村ではチームが到着すると、高齢者や子どもらが続々に訪れ、診察を受けた。

二人は「震災後のシヨクや、眠れなくて困っている人が多い。病院に行けない人も多いようだ」と話していた。

調整員追加派遣

AMDAが決定

きょう出発

インドネシア・ジャワ

島中部地震での被災者支援に当たっている国際医療ボランティアAMDAは一日、谷口敬一郎調整員(三六)と岡山市二を追加派遣することを決めた。

岡山空港を二日出発し三日にシヨクジャカルタ入りする。現地では医薬品購入や巡回診療に向けた準備を行う。

(臼杵正純)